

命の木

聖書：創 2:7-9、啓 2:4-5、7、22:2、14、Ⅱコリント 4:5、5:14-15

- I. 命としてのキリストは、命の木の実際であり、命の木は宇宙の中心です。命は、神の創造の目標であり(創 1:26-28、31、2:7-9)、神の全体的な救いの目標です(ヨハネ 19:34、ローマ 5:10、啓 22:1-2、14、19)：
- A. 聖書で、命の木は常に、わたしたちの食物のための、神のすべての豊富の具体化であるキリストを表徴します。神が人を命の木の前に置いたことが示しているのは、人が神を有機的に食べ、新陳代謝的に吸収することによって神を人の命として受け入れるのを、神が願っているということです。それは、神が人の存在の構成要素そのものとなるためです——コロサイ 2:9、創 2:9、ヨハネ 1:4、10:10、14:6、15:1、6:35、57、63、Ⅰコリント 15:45 後半。
- B. 啓示録第2章7節で、命の木は、十字架につけられ(一片の木材としての木において暗示される——Ⅰペテロ 2:24)復活した(神の命において暗示される——ヨハネ 11:25)キリストを表徴します。彼は今日、召会の中におり、召会の究極的完成は新エルサレムであって、その中で十字架につけられ復活したキリストは命の木であり、神のすべての贖われた人を養い、永遠に至ります(啓 22:2、14)。
- II. わたしたちは、神の命が人の中で出遭う障害を見る必要があります：
- A. 神の命がわたしたちの中で出遭う第一の問題は、わたしたちが自分の人の観念の暗さを認識していないということです：
1. わたしたちが見る必要があるのは、クリスチャン生活において重要な唯一の事が、わたしたちの中の生けるキリストを、わたしたちがどのように顧慮するかということです——ガラテヤ 1:16、2:20、4:19、ピリピ 1:19-21、エペソ 4:13、Ⅱコリント 3:18。
 2. クリスチャンであるとは、キリスト以外のどんなものもわたしたちの対象にしないことを意味します。多くの人が救われた後に、霊的な命の上で問題を持つのは、彼らが命の道を認識しておらず、キリストを命としていないからです。
- B. 命がわたしたちの中で出遭う第二の問題は、偽善です——マタイ 6:2、5、7:5、23:13-29：
1. 人の霊性は外側の現れによってではなく、彼がどのように内住するキリストを顧慮するかによって決まります。
 2. わたしたちの天然の良さは偽りの霊性であり、それは実は命にとって大きな障害です。命の表現は、わたしたちの天然の性情と好みを拒絶して、単純になってキリストにわたしたちの中で活動していただき、わたしたちを砕いていただくことと関係があります。
 3. もしわたしたちが、いつも自分の性情と天然の存在にしたがって物事を行なうのであれば、その結果はいつも偽善です。
- C. 命がわたしたちの中で出遭う第三の問題は、反逆です：
1. キリストがわたしたちの中で活動し行動するのは、わたしたちに対する彼のみことろと要求について、また彼がわたしたちを導いて対処することについてはっきりとさせるためです。
 2. しかしながら、もしわたしたちが内側の感覚に服従せず、逆らい、彼の導きを受け入れず、代価を払わないなら、このように反抗することや反対することは、反逆です。
 3. わたしたちが最もしばしば、また最もひどく犯す罪は、外側に見えるものではありません

ん。そうではなく、わたしたちの中のキリストの感覚に服従しないという罪です。キリストはわたしたちの中に生きており、絶えずわたしたちに命の内側の感覚を与えています——ローマ 8:6。Ⅰヨハネ 2:27。

D. 命がわたしたちの中で出遭う第四の問題は、わたしたちの天然の能力です：

1. 多くの兄弟姉妹は真に主を愛しており、主のために熱心であり、とても敬虔^{けいけん}です。それにもかかわらず、彼らの最大の問題は、彼らの能力と才能が強くて大きいことです。結果として、キリストは彼らの中で地位や道を持ちません。
2. わたしたちは有能で能力があるかもしれませんが、これらのものを罪や汚れと考えていません。わたしたちは自分の天然の有能さを軽べつするのではなく、それらを尊んでいきます。もしそれらがわたしたちの中で砕かれな^ないままであるなら、それらはキリストの命にとって問題となります。

E. わたしたちの中のこれらすべての障害に対して、一つの解決があります。すなわち、わたしたちは十字架を経過し、十字架にわたしたちを砕いていただかなければなりません。キリストの命がわたしたちの中で妨げられないことを願うなら、わたしたちは十字架の砕きを経験して、これらの障害が対処され、取り除かれるようにしなければなりません——マタイ 16:24-25。

Ⅲ. わたしたちは命の木としてのキリストを食べるために、すべての事で彼を第一位としなければなりません。それは初めの愛をもって彼を愛し、彼の愛に押し迫られ、彼を尊重し、彼をわたしたちの生活の中であらゆるものとするということです——啓 2:4-5。コロサイ 1:18 後半。Ⅱコリント 5:14-15。マルコ 12:30。詩 73:25-26。80:17-19：

- A. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、命の木としての彼を食べることです。命の木としてのキリストを食べること、すなわち、わたしたちの命の供給としてのキリストを享受することは、召会生活における主要な事柄であるべきです——啓 2:7。ヨハネ 6:57、63。
- B. 召会生活の内容は、キリストに対する享受にかかっています。わたしたちが彼を享受すればするほど、その内容はますます豊かになります。しかし命の木としてのキリストを食べること、彼をわたしたちの命の供給として享受することは、初めの愛をもって彼を愛することを必要とします——啓 2:4-5。
- C. 一方で、厳密に言って、啓示録第 2 章 7 節における神のパラダイスにある命の木から食べることは、来たるべき千年王国における新エルサレムで、キリストをわたしたちの命の供給として特別に享受することを指しています。
- D. もう一方で、わたしたちは、十字架につけられ復活したキリストを、命の木、すなわちわたしたちの霊の中の食物の供給として、召会生活における今日の前味わいとして享受しています。あらゆる地方召会は神のパラダイスであり、そこではキリストが、わたしたちが享受する命の木です。
- E. わたしたちがすべての事で主を第一位とし、十字架につけられ復活したキリストを、命の木として食べることを一日中、維持するとき、召会は、その状態がどのようなであっても、わたしたちにとってパラダイスとなります。こういうわけで、召会に対するわたしたちの感覚と態度は、わたしたちの状況にかかっています。
- F. 「もしわたしたちが今日、召会生活の中で命の木としてのキリストを享受しないなら、王国時代に命の木にあずかることは確かにありません。わたしの経験によれば、今日アナハイムに在る召会は、わたしにとってパラダイスです」——ウイットネス・リー全集、1994 年—1997 年、第 5 巻(上)、「バイタルグループ」(第 11 編)。

- G. 召会の荒廃と墮落の内在的な理由は、キリストが神の民によって高く上げられていないことです。彼らはあらゆることで彼を首位、第一位としていません。神の民が彼らの生活のあらゆる面でキリストを高く上げ、彼を首位とするときはいつも、回復と復興があります——詩 80:17-19。
- H. キリストは、わたしたちの生活においてだけでなく、わたしたちのすべてのメッセージにおいても第一位を持たなければなりません。「わたしたちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、キリスト・イエスを主と宣べ伝え、また、わたしたち自身がイエスのためのあなたがたの奴隷であることを宣べ伝え[ます]」——Ⅱコリント 4:5. 参照、ヘブル 1:3, 8:1, 12:2. 詩 80:1, 17-19, 110:1-7:
1. わたしたちは自分の働きにおいて、絶えず人々を中心に引き戻して、彼らに「キリストが主である」ことを見せるべきです。わたしたちは主イエスに、御座の上の場所を与えなければなりません——参照、雅 1:1-4, イザヤ 6:1, 3, ヨハネ 12:41。
 2. そのようなメッセージを与えるために、わたしたち自身が神によって砕かれ、キリストにわたしたちの中で第一位を持っていただくようにしなければなりません。わたしたちのメッセージは、まさにわたしたちのパーソンです——Ⅱコリント 4:10-13, ヨハネ 12:24-26. 参照、ルカ 12:49-50。
 3. 主の「よくやった」は、この世のすべての称賛にまさります。天の笑顔は、地のすべての怒った顔にまさります。天の慰めは、地のすべての涙にまさります——マタイ 25:21, 23, エレミヤ 1:7-9, 18-19, ダニエル 4:26。
- I. わたしたちはすべての事でキリストを第一位とするために、わたしたちの王である彼に対して、愛情のこもった愛を持たなければなりません。そのとき、わたしたちの舌は、速やかに物書く人の筆となり、彼に対するわたしたちの愛と、彼に対するわたしたちの賛美を、彼であるすべてにしたがって、彼に対するわたしたちの経験と享受をもって、速やかに書きます——詩 45:1-2. Ⅱコリント 3:3, 6。
- J. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、彼をわたしたちの中心性(わたしたちを保持する中心)、またわたしたちの普遍性(わたしたちのすべて)とすることです。わたしたちは彼を、わたしたちの個人的な宇宙の中心、内容、円周とする必要があります——コロサイ 1:17 後半, 18 後半。
- K. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、彼の麗しさを見つめ、わたしたちのクリスチャン生活と働きのあるあらゆる詳細において、エホバの助言を求めることです——詩 27:4, ヨシュア 9:14, ピリピ 4:6-7。
- L. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、わたしたちのミングリングされた霊によって管理され、支配され、指示され、導かれ、動かされて、彼のとりことなることによって、また「主よ、わたしを征服してください。決してわたしに勝たせないでください。絶えずわたしを打ち破ってください」と祈ることによって、わたしたちの霊の中の安息を顧みることです——Ⅱコリント 2:13-14。
- M. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、畏るべき水晶のような澄み渡った空と、その上に神のサファイアの御座を持つことです。これは、わたしたちと主との間に何もなく、わたしたちが彼の支配する臨在の天的な雰囲気、状態、状況で満たされ、彼をわたしたちの王とし、彼にわたしたちの内側で統治し、王として支配していただくことを意味します——エゼキエル 1:22, 26。
- N. 地上で王として支配する王なるキリストだけが、王職における彼の助け手としての勝利者たちと共に、今日の世界の問題を解決することができます(イザヤ 42:1-4)。キリストの

御名は、すべての世代で覚えられ、彼の勝利を得た、また共同で王として支配する聖徒たちを通して、諸国民によって賛美されます(詩 45:16-17、啓 2:26)。

- O. シオンによって予表される勝利者たちは足がかりであり、それを通して主は戻って来て全地を所有します——詩 48:2、ダニエル 2:34-35。
- P. 「城門よ、あなたがたの頭を上げよ。長く耐え忍ぶ戸よ、上げられよ。栄光の王が入って来られる。栄光の王とはだれか？ 強くて力あるエホバ！ 戦いに力あるエホバ！……その栄光の王とはだれか？ 万軍のエホバ、彼こそ栄光の王！」——詩 24:7-8、10：
1. 城門は諸国民の都の城門です。戸は民の家の戸であり、キリストはすべての諸国民の願いです(ハガイ 2:7)。すべての諸国民は、一般的な方法で、キリストが来ることを期待していますが、キリストはわたしたちの人の観念にしたがってすぐに来るのではありません(Ⅱペテロ 3:8-9)。こういうわけで、わたしたちは自分の頭を上げ、長く耐え忍んで彼の来臨を期待する必要があります。
 2. 栄光の王は万軍の(すなわち、軍隊の)エホバであり、打ち勝つ勝利を得たキリストに具体化された、究極的に完成された三一の神です(ルカ 21:27、マタイ 25:31)。エホバはイエスであり、イエスは、肉体と成り、十字架につけられ、復活した三一の神であって、彼は戦いに強く、勝利を得ます(1:21、啓 5:5)。
 3. 彼は、復活の中で、彼の勝利者たちと共に戻って来て、全地を彼の王国として所有する方です——ダニエル 2:34-35、7:13-14、ヨエル 3:11、啓 11:15、19:13-14。
- Q. キリストは神の御座にいる方として、赤めのう(その赤色は贖いを表徴する)と碧玉(その^{へきぎよく}深緑色はその豊富における命を表徴する)の外観を持っています。こういうわけで、わたしたちはキリストの頭首権に服従し、彼の御座の下にいますとき、彼の法理的な贖いと有機的な救いにおいて彼であるすべての益を受ける者となり、豊富な命における栄光の神と同じ外観を帯びます——4:3、21:10-11 前半、ローマ 5:10。
- R. キリストの贖う血で自分の衣服を洗う者は、聖なる都、神のパラダイスにおいて、命の木を享受する権利を、彼らの永遠の分け前として持ち、永遠に至ります——啓 22:14、2:7。